



1. はじめに

夏休みも終わり、2学期が始まりました。みなさん元気にしていましたか。なかなか「休み癖」が抜けない人もいるかも知れません。まずはスタートダッシュが大切です。気持ちを切り替えて、今学期も頑張っていきましょう。私たち教員も更に張り切って、パワーアップしたいと思います！

今学期は体育祭(10/12)や水高祭(10/26, 27)、ロードレース(12/21)といった学校行事も多く、3年生は進路が決定する大切な時期です。また、1・2年生は「中だるみ」しがちな頃です。規則正しい生活を続け、勉強そして部活動や行事も、力を合わせて努力していきましょう。何でも皆で一生懸命やってみる、という雰囲気になればいいですね。

2. 継続することの難しさと大切さ

人権・同和教育部 副主任 田邊 賢一

私が本校に赴任をして8年目を迎えましたが、一度だけ感極まって涙したことがあります。(鬼の目にも涙?) 卒業式でも体育祭でもありません。それは部活動です。

私は弓道部の顧問をしています。2年前の総体での話です。その年は男子団体では生徒の頑張りで優勝したのですが、その話ではなく、1人の女子部員の話です。

その女子生徒は学年でたった一人の女子部員でした。大人しい生徒で必要以外口を開くことは(少なくとも私には)ありませんでした。同学年の男子12人がワイワイ言いながら練習している中でいつも黙々と練習をしていました。

彼女はセンスがあり1年の11月の大会では個人で島根県代表として中国大会に出場しました。しかし、その後“早気(はやけ)”という弓道の病になり、1年の後半

からは弓を引いても引いても的に届かない日々。しかし彼女はくじけずには時には弓を引かず基本練習を続け、ほとんどの中しない弓を引き続けました。後輩たちがどんどん上達する中、とても苦しい日々だったと思います。

3年最後の総体。結果は的中なし。やはりドラマのようにはいきませんでした。彼女が嗚咽を漏らしながら後輩達に謝っている姿を見て自然と涙が出てきました。努力が必ず結果を結ぶとは限りませんが、この努力は今後の彼女の人生の大きな財産になると思います。自分だったら果たして弓道が続けることが出来たかどうかと自問自答しました。

あなたは今、何か苦しくても続けていることはありますか。

3. 嬉しかったこと

本年度私が浜田水産高校に転勤して来てから一番嬉しかったことを紹介します。

4月1日(月)、出勤初日。自分の席に座ってパソコンを開けました。するとそこには…



このメッセージが置かれていました。(カラーでお見せできないのが残念です。)驚くと同時に感激してしまいました。私は教員になって6回目の転勤でしたが、このよう

裏へどうぞ!

に「歓迎」されたのは初めてでした。新任の教員全員がこの歓迎を受けたのはもちろんです。どなたが作ってくださったのだろう、こんな素晴らしいアイデアをお持ちの先生とこれから一緒に仕事ができるんだ、と本当に嬉しくなりました。

何回転勤しても新しい職場では緊張して不安な気持ちで一杯になります。3月下旬に私は一度職員室を訪れ、前任の先生から仕事の引き継ぎを受けていますが、最初は右も左も全く分かりませんでした。職員室の黒板には「2年KM、KE」、「専攻科F、E」…などと書いてあり、今でこそ「2年海洋技術科海洋コース、機関コース」、「専攻科漁業科、機関科」のことだと分かるのですが、初めは何、これ…?という感じでした。そんな落ち着かない気持ちがこの「歓迎」でパッと明るくなりました。

仕事でも個人的な付き合いでも、このように「人に喜んでもらえる」ことが自分にできているだろうか、逆に「嫌がられる」ことばかりしているのではないかと反省し、私もこのような気遣いができるようにならなければ、と思いました。

さて、この「歓迎メッセージ」はどなたが作られたと思いますか。正解は、今回この「たより」に寄稿していただいた田邊賢一先生です。本当にどうもありがとうございました。



4. よく覚えている生徒のこと

教員生活も29年目となると色々な生徒と関わり合いになります。その中で印象に残っている生徒を二人、紹介したいと思います。

まず、授業中ほとんどノートを取らない女子生徒の話です。私は英語の担当なのですが、授業中、彼女はちょっと首を傾けて（顔を横に向けて）じーっとしています。ほとんど身動きもせず、私の方を凝視しています。くだらない話をしても、にこり、ともしません。最初の頃はあまり気にしていなかったのですが、彼女がノートも取らないのに気が付いて、だんだん心配になって来ました。私の授業中は毎時間そんな感じなのです。私はま

だ新米の教員で自分の授業にも自信がなく、彼女はもしかしたら授業が全く分からないのではないかと、それとも怠けていてそんな態度なのかも、と考えていました。

ある日、授業が終わってから尋ねてみました。

「あ、あの…、授業中、なんでずっと横を向いているのかいね。ノートも取ってないし…」

「先生、私、こっちの耳が全然聞こえないんです。だからいつも横を向いています。それでも聞こえ難いから頑張って聞いています。ノートを取るのと、聞くのと、同時にはできなくて…。すみません。」

彼女の言葉は予想外でした。私は反省し、これからは意識して大きな声でゆっくり話そう、と思いました。

彼女の成績が抜群に良かったことは言うまでもありません。

二人目も女子生徒の話です。彼女もかなり前に授業を担当した生徒なのですが、本校に転勤して来てから、あるクラスの授業中に彼女を思い出したことがあります。

その授業中、なぜか授業内容とは直接関係のない雑談になった時、ある生徒が言いました。

「勉強が好きな人なんか、いませんよね。」

私は「ああ、嫌いな人は多いだろうけど、そうとも限らない。」と答えて、彼女のことが頭に浮かんだのですが、彼女の話はせずに大学教授や研究者の話をしました。大好きな「学問」で生計を立てている人も多い、ということです。また、「僕らはどうしても、自分の好きなことは他の人も好きで、自分の嫌いなことは他の人も嫌い、って思ってしまうけれど、それはちょっと違うだろう。」という話もしました。

さて、彼女は「勉強」が好きでした。春休みが明けた始業式の日、3年生になった彼女が職員室にやって来ました。

「新しい英語の教科書、全部読んじゃいました。次、何を読めばいいですか。」

えっ、ホント?!僕はまだ全部読んでないよ(汗)。う～ん、じゃあ…、これでも読んでみる?



(文責：古田千博)